想いを繋ぐ

～事業承継コラム～

エリアコーディネータ
楠　正志

第８回　年末年始にはぜひ家族会議を

前回の年末年始やお盆はコロナ禍で帰省を控えた方も、多くの方々がワクチン接種を終え、この年末年始は、久しぶりに帰省される方も多いのではないでしょうか。帰省のタイミングは、両親、兄弟、親類含め家族会議を開く貴重な機会でもあります。

帰省の時こそ家族会議を

両親が高齢になってくると、色々と準備しておくべきことが出てきます。しかし、両親は子供に心配かけまいとし、全てを話すことは少なく、解決すべき問題があっても把握することが難しいことがあります。帰省は離れた親族が集まる数少ない機会です。高齢になってくる両親の今後や家業の今後について親族で話し合い、自身の考えもしっかりと伝える機会として、年末年始の帰省時に家族会議を開くことをお薦めします。

両親はいつまでも現役ではない

両親にはいつまでも元気でいて欲しいと思う気持ちはだれしも同じですが、高齢になると健康面の不安を抱えがちになり、さらに家業を営んでいると、どこまで現役で続けられるのか、後継ぎの問題、相続財産の問題といった点について考えざるを得なくなります。ただ、ありのままを子供に話すのをためらうのが親心でしょう。しかしそれでは子供が実情を把握できず家業について改めて考える機会も失います。年末年始の帰省の家族会議で、是非ともきちんとこれらの話をしてください。

万が一への対応

もし、両親に万が一のことがあった、何らかの健康問題が生じ日常生活で介護が必要となったとき、実家の実情を把握していれば万が一の状況に対応することができるでしょう。

さらに、そのような話をするときには、家業はどうするか、どこに資産が保管されていて、どのように相続すべきか、さらにお墓の問題等についても話題を広げてみるのもいいでしょう。いつか確実に起こることを和やかな雰囲気の帰省中に軽く聞いてみるのはいかがでしょうか。

家業を継ぐことを子供に伝えない親

㈱日本Ｍ＆Ａセンターが２０１８年７月に実施した【創業30年超の老舗中堅・中小企業１０００社対象】事業承継に関する意識調査」によれば、全国の後継者不在率は66・５％ですが、老舗中堅中小企業の74・６％が「後継者がいる」と回答しており、後継者候補者については、半数以上が「子供」と回答しております。にもかかわらず、子供に事業を引き継ぐ意思について「直接、何度も聞いたことがある」のは31・６％で、「一度は聞いたことがある、あるいは一度も聞いたことはない」が59・１％もありました。

親族承継において、両親は会社を継いでほしいと考えているけれども、本人には伝えていない可能性が高いと考えられます。

後継者側からのコミュニケーション

両親から家業を継ぐことへの打診がなくても、子供の側から、事業を引き継ぐ意思があるのかないのかを伝えることにより、両親に万が一のことがあった場合にもスムーズに物事が進む準備ができるのではないでしょうか。

年末年始、家族会議で『継ぐ覚悟と継がせる覚悟』を共有しましょう。

お問合せ先
福井県事業承継・引継ぎ支援センター
０７７６（３３）８２７９